

2021年度第3四半期
テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2022年2月10日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2022年2月10日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2021年度第3四半期決算について

質問	回答
第3四半期累計の売上高が、通期売上見通しと比較して進捗が鈍い理由を教えてください。併せて、新型コロナウイルス感染再拡大の影響はどうか。	期初、海外大型案件の進捗は今期後半から期末に向けて大きく伸びてくると予想していたが、我々の想定より進捗の伸びが思いのほかスローであった。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響も少なからずあるが、売上主要案件であるLNGカナダは、モジュール製作が最盛期を迎えており、建設現場も現地政府の予防対策ガイドラインを順守しながら順調に各種工事が進捗している。もう一つの主要売上案件であるイラク製油所は、詳細設計が始まり、主要機器の発注はほぼ完了し、建設現場の造成工事は順調に進んでいる。
第3四半期累計の粗利益率は順調に推移しているように見えるが、計画通りという認識でよいのか。第3四半期でプラス要因やマイナス要因があれば教えてください。	累計粗利益率は、第2四半期において、総合エンジニアリング事業や機能材製造事業で利益改善があったが、第3四半期では、特に大きく利益改善や悪化した要因はなかった。
競合他社のなかには、新型コロナの影響などで資機材の輸送で影響を受けている企業もあるが、当社はどうか。	現時点で影響を受けている案件はない。
資機材価格高騰の影響の状況をアップデートしてほしい。	現時点で大きな影響は受けていない。LNGカナダは既に資機材発注は終了

	<p>しており影響はない。イラク製油所は詳細設計が始まり、主要機器の発注はほぼ完了した。今後、バルク材の購入が始まり、現時点では大きな影響はないと想定しているが、引き続き状況を注視していく。国内案件は、特に影響は受けていない。</p>
<p>機能材製造事業について、第3四半期累計の売上・セグメント利益は順調に推移しており、第4四半期だけを見るとセグメント利益が失速するようにも見えるがどうか。また、機能材製造事業の来期の業績見通しも教えてほしい。</p>	<p>通期業績予想値との差し引きで、第4四半期に失速するように見えるかもしれないが、特に大きな要因があるものではない。原材料価格高騰の影響を注視しているが、不安視するほどではない。</p> <p>世界経済の回復に伴って、製品需要の回復も顕著になっている。特にファインケミカル分野の化粧品材や眼鏡コーティング材などの需要回復が続いている。来期の見通しは、現状未だ具体的な数値はお答えできないが、製品需要の底堅さから大いに期待している。</p>
<p>通期売上高見通し 4,700 億円の達成は難しいようにも見えるがどうか。</p>	<p>売上の伸びを期待できる可能性もあるため予想数値は据え置いているが、期初の見通しより海外大型案件の進捗がスローペースであり、未達になる可能性はある。</p>

2. 受注・マーケット環境について

質問	回答
<p>第4四半期で受注が期待できる案件はあるか。 また来期の受注目標のイメージはどうか。</p>	<p>海外子会社が第4四半期（10月～12月）に複数案件を受注し、合計で700億円程度ある。これを当社の第4四半期（1月～3月）に計上することを見込んでいる。さらに、期末にかけて中東のガス処理案件や北米のガス化学案件の受注を期待しているほか、入札済みのアジアでの複数のインフラ案件も良いポジションにあり、受注目標 5,000 億円の達成の可能性はあると</p>

	<p>考えている。</p> <p>来期受注目標については、今期から期ズレする案件や新たな入札案件、現在基本設計（FEED）役務を遂行中の案件など、個別の案件の状況を精査したうえで決定していく。</p>
<p>緊迫するロシア・ウクライナ情勢が当社の受注活動やプラント業界に与える影響をどのように見ているか。</p>	<p>ロシアでは複数の大型 LNG 計画が動いており、当社が基本設計（FEED）業務を遂行している案件もある。ウクライナ情勢、ひいては日本をはじめとする米国や欧州のロシアへの対応を見極めたい。</p>
<p>国内洋上風力発電の第 1 ラウンド事業入札において、三菱商事が独占したという状況について、コントラクターとしてどのように受け止めているか。</p>	<p>当社をはじめとするコントラクターに対し、事業者から今後より一層のコストダウン策が求められると想定される。プロジェクト全体の最適化や海外調達、EPC 経験の豊富な海外コントラクターとの協業など、エンジニアリング会社として強みが発揮できる面があると考えている。</p>

3. 来期業績見通しについて

質問	回答
<p>来期業績の方向感、来期業績に影響を与えそうなトピックがあれば、教えてほしい。</p>	<p>現時点で明確な方向性を述べることは難しいが、来期も海外案件で大きく売上貢献するのは LNG カナダとイラク製油所であり、LNG カナダは今期と同レベル、イラク製油所は大幅な売上貢献増を期待している。国内案件も今期よりも来期の方が売り上げは期待できる。加えて、今期第 4 四半期から来期前半にかけての大型案件の受注の成否によっても、売り上げ増が期待できると考えている。</p>

4. その他（ニュースリリース関連）

質問	回答
核融合分野のスタートアップ企業である京都フュージョニアリングに当社が出資した狙いを教えてほしい。	当社グループのコーポレートベンチャーキャピタル（CVC）を通じて出資した。核融合はCO2を排出しない次世代エネルギーとして期待されている。本出資によって、京都フュージョニアリングの技術に、当社グループがこれまで核融合および原子力分野で培ったエンジニアリング技術を融合させることで、核融合の研究設備の具体化に貢献するとともに、核融合炉プラントの実用化に向けて様々な知見・ノウハウを得ることを期待している。

以 上